

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/02/01 ～2019/02/28)

1. 勉学の状況

春セメスターは専門の授業があまりなく、スポーツマネジメント関連のクラスが既に終了したスポーツメディアを含めて3つ、と実技のクラス、英語の授業を履修しているという状況です。授業が少ないため、自分で自由に使える時間が多く、授業以外での学びが多くあります。

◎ Public and voluntary sector in sport

スポーツに関する公的機関（政府、地方自治体）や自発的な機関（スポーツクラブ、サークル）がスポーツの発展にどういった影響を及ぼしているかを学ぶ授業です。修士課程の学生向けの授業で、課されるタスクも少し難しいです。ペアで指定された範囲の本を読み、その内容に関して専門家に話を聞き、そのインタビュー内容も含めて45分のプレゼンにまとめるというのが最終課題となっています。

◎ Physical education practicum/ skating

これは体育教員養成用の実技の授業で、アイススケートを基礎から学ぶというものです。フィンランドでは、皆が小さい頃からアイススケートやアイスホッケーを楽しむので、そういった文化も授業を通して体感できることはとても貴重な経験になります。アイスホッケーが好きなので、少しでも上手くなれるように多くのことを吸収したいと思います。

◎ Basic Academic Writing for international student

この授業は留学生向けの英語のアカデミックライティングを伸ばすためのものです。基礎的な内容は多いのですが、書く機会がたくさんあるのと、添削をしてもらえるとだったので履修することにしました。留学に来て、スピーキングは向上していますが、ライティングなどはもっと量をこなしていけないといけないと思っているので、頑張ろうと思います。

◎ スペイン語

これは個人的に始めたことですが、前のセメスターにスペイン人の友達が多かったことと、スペイン人のルームメイトがいることでこの機会は逃せないと思い、新しい言語にチャレンジすることにしました。ヨーロッパでは2カ国語以上話せることはスタンダードで、自分の幅を広げるためにも言語圏の広いスペイン語を習得しようと考えました。大学での

each one teach one という言語交換プログラムに加え、家でルームメイトに教えてもらっています。

2. 生活の状況

ユヴァスキュラは暖かくなったり、寒くなったりを繰り返しています。少しずつではありますが、春が近づいている感じがします。長く、厳しい冬を乗り越えてやってくる春、夏はかなり楽しみです。春セメスターに入り、半期の留学生が入れ替わりました。今期は、ほとんどイベントなどに行っていないため新しい友達がありません、秋セメから仲の良い友達と暇な時間を過ごしています。そんなこともあり、1人の時間が増え、自分と向き合う良い機会にもなっています。人としての幅を広げたい、成長したいと思うときに大切な要素で「住む場所」「時間配分」「付き合う人」を変えてみる」というものがあります。留学を通して、これらの要素の全てに変化が生まれることで、今まで無意識に行動してきたあらゆることに意識が向くようになります。その過程の中で自分を知り、今後どうしていきたいのかを考え、今できること、やりたいことに挑戦するという力が身についてきていることを実感しています。

生活にも特別なことがないので、フィンランドの体育について少し書きたいと思います。

フィンランドの体育

フィンランドのスポーツ実施率が高い要因の一つに学校体育があるのではないかと仮説のもと、学校体育見学を数ヶ月に渡って行っていました。小学校から高校まで観た中で、学校体育が将来の運動のきっかけになっているということが少しずつわかってきました。日本の体育のように、授業内で技術を習得させようとするのではなく、できるだけ多くのスポーツに触れて、その楽しさを感じてもらい、自由時間、将来の運動習慣につながれば良いというのが狙いとしてあるように思います。フィンランドでは、地方や学校に指導内容を決める権限が委ねられているため、ある程度自由をもって内容を決めることができます。小学校中学校では、約2回ごとに扱う種目が変わり、日本の体育の2倍近くの種目を行います。たとえば、その運動が苦手な子どもでもすぐに種目が変わり、自分が少しでも上手くできるスポーツを見つけることができたり、運動が得意な子どもはどんどん新しいスポーツに触れ、楽しむことができます。日本の学校体育では、同じ種目を7、8回と扱い、パスの方法などを細かく指導します。体育の本質はスポーツの“楽しさ”を伝えることであり、つまらないパスの仕方を数回に分けて練習したり、集団主義を促す行進の練習や、列のつくりかた、点呼の方法などを学ぶことはありません。

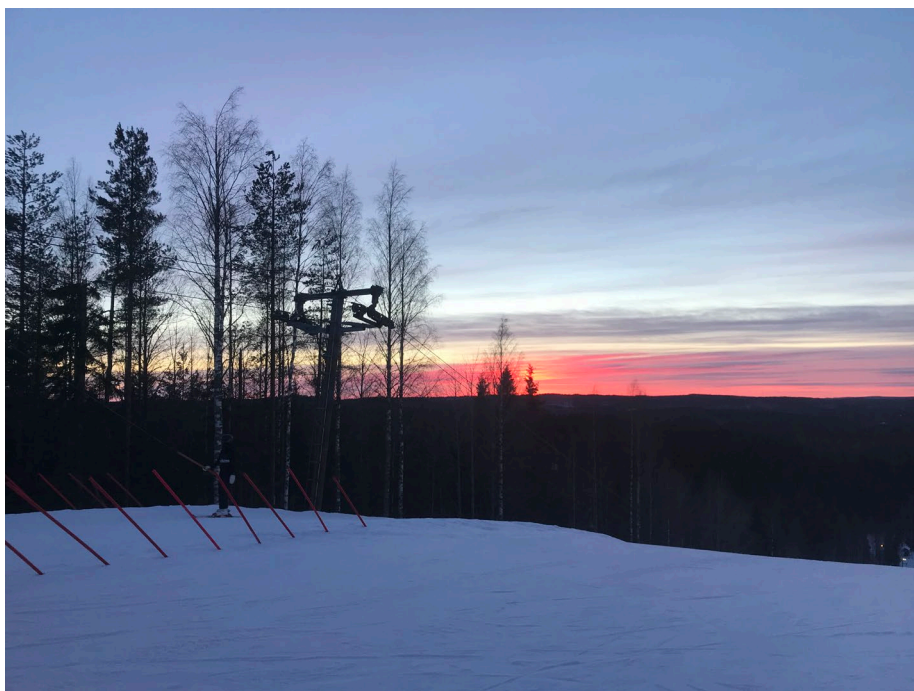
高校体育では、より個人の運動習慣に重点を置いた内容のものが多くありました。高校では、体育は選択制になっており、好きなものを履修することができます。内容はボールゲームからジムでのトレーニング法（器具やマシンの使い方）、ヨガ、ストレッチ、クロスフィットなどかなり現代的なものが多くあります。

こういった体育の面からも、はっきりとした教育観の違いがわかるような気がします。受験のために知識を詰め込む日本の教育と、より将来をみつめ“人としてのスキル”（21世紀型スキルと言われるもの）を身につけさせていくようなフィンランドの教育、すぐに変わることは社会構造上、難しいのかもしれませんが、どちらが理想的かは明らかです。

留学自体も残り4ヶ月近くになりました。来月からは、地元のフットボールクラブでボランティアとして働くことになったので、楽しみながら多くの経験を積みたいと思います。



近くの湖でアイススケートができます



週末にスノボに行っています



フレンドシップファミリーとクロスカントリーをしました